

新川会通信

第35号

すまいる

発行
社会福祉法人新川会

〒930-0362
上市町稗田字七郎谷1-32
Tel(076)472-1118
Fax(076)472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
HP http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 倉田 淳



工房よつば 5周年目に向けて



子です。

利用者さんの個性を考慮し、作業内容や配置、手順を示しています。働く上でのルールや約束を守り、責任をもって取り組むことを大切に、認めあえる環境づくりに努めています。「できない」ことを理由にするのではなく、「どうやつたらできるか」を考え、一人ひとりの「強み」を生かせる場面をつくっています。

働くことで、生きがいと喜びを感じる。必要とされていいることが実感できると、意欲的な毎日を過ごせるように思います。

地域の中で生活していることを実感できる活動を取り入れながら、一人ひとりの願いの実現にむけて支援していきたいと思います。

働くことの支援について

工房よつば施設長 富田 久美子



つつじ苑は、滑川市の行田公園のすぐそばにあり、現在三十七名の方が利用されています。

そのうち生活介護班には、十六

名の方が利用されています。

活動内容は、タイルを使ったコースターや鍋敷き、牛乳パックを再利用した柿渋製品、フェルトのマスクットやヘアゴムなどの自



主製品作りに取り組んでいます。他に、今年度から、木製品にはんだごてで模様を描いたウッドバーニング製品作りにも取り組んでいます。

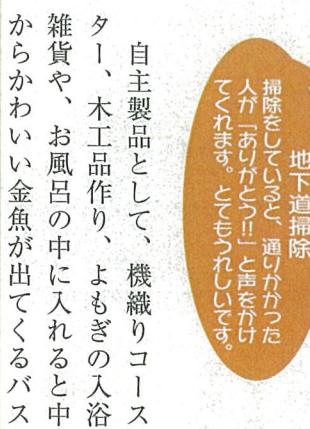


また、チップ入れ、色塗り、パズルなどの指先を使った機能訓練も行っています。

天気の良い日には、隣にある行田公園へ散歩にでかけ、体力作りと気分転換を図っています。

就労継続B型班は、二十一名の方を利用されています。

委託作業では、タオルたたみを中心に戻滑川駅と地鉄中滑川駅の地下道掃除を行っています。他には滑川市からの委託作業として、あいの風滑川駅と地鉄中滑川駅の地下道掃除を行っています。年末には、カレンダー巻きや昆



布巻きのシール貼りも行っています。

自主製品として、機織りコースター、木工品作り、よもぎの入浴雑貨や、お風呂の中に入れると中からかわいい金魚が出てくるバス



その他の活動として、調理実習や造形活動、レクリエーション活動を毎月一回ずつ行っています。



ボム作りにも取り組んでいます。



今年も楽しい夏のひと時を過ごすことができ、利用者の皆さんにとってよい思い出が出来ました。

今年も楽しい夏のひと時を過ごすことができ、利用者の皆さんにとってよい思い出が出来ました。

校吹奏楽部による演奏では、聞きなれた曲が流れ、普段なかなか聞くことのできない生の楽器の演奏を聴くことができました。天気にも恵まれ、模擬店では特に手作り調味料のバジルソルトを使った焼き鳥が人気で、他

最初に行われた、上市高校吹奏楽部による演奏では、聞きなれた曲が流れ、普段なかなか聞くことのできない生の楽器の演奏を聴くことができました。天気にも恵まれ、模擬店では特に手作り調味料のバジルソルトを使った焼き鳥が人気で、他

四ツ葉園だより

八月六日に「第二十四回四ツ葉園の納涼祭」が行われました。利用者を代表して宍戸美文さんが開会宣言をし、賑やかにスタートしました。



にも素麺やたこ焼きなどの美味しい食事でお腹一杯になりました。その後、きれいなぼんぼりの下で、櫓を中心に『上市音頭』『炭坑節』を利用者の皆さん、保護者の皆さん、地域の皆さんが開会宣言をし、賑やかにスタートしました。



手作り太鼓で練習!!



太鼓づくり

練習では一致団結のために、手作り太鼓を使つたりズムゲームをしています。



本番に向けて「せーの!!!」



納涼祭では教室始まって初のお披露目となり練習の成果が披露できたと思います。今後も四ツ葉園祭に向けて頑張っていきたいと思います。

太鼓教室

今年度より新しく太鼓クラブの教室が始まりました。初日はボランティアの方の協力もあり、模擬店では大きな混乱もなく行なうことが出来ました。

また、上市町赤十字奉仕団、レディースサークル、学生の皆さんにもご協力いただき、素敵なかみいちまち納涼祭となりました。

庄太鼓さんより太鼓をお借りして、本格的な太鼓を使用した本番ながらの活動をしています。太鼓を叩くとその音と手ごたえに、いつも以上に練習に気合が入りました！

納涼祭本番になると、弓



雷鳥苑だより

立山町赤十字奉仕団活動事業 (北部小学校交流会)

八月九日(火)

に北部小学校と
の交流会が行わ
れました。

この交流会は、
立山町赤十字奉仕団
の皆さんのが主催とな
り、毎年雷鳥苑で行わ
れている行事です。



縮作業と、工芸班でマスコット
作りの二班に分かれて活動しま
した。

難しいところは利用者の方が
丁寧に教えておられ、それに応
えようと児童の皆さんがあくまで
取り組む姿が印象的でした。

お昼は、奉仕団の皆さんがあつ
てくださったおにぎりや流しそ
うめんをおいしく頂きました。
午後は、七夕の短冊にみんな
で目標や願いごとを書き、発表
をしました。願いごとに思いを
はせながら白玉あんみつでほつ
こりし、和やかなひと時を過ご
しました。



金箔貼り体験をしました



新幹線に乗りました



海鮮丼がおいしかったです

工房よつばだより

金沢遠足

七月十四日(木)

はくたかに乗つ
て、石川県金沢市

に遠足に行きました

た。周遊バスで「か

なざわカタニ」へ移
動し、金箔貼り体験を

しました。息で吹き飛ぶ

ほど薄い金箔に、皆さんは
大苦戦。好きな小皿に、かた
どった数枚の金箔シートを貼り
つけました。昼食は事前に決め
ていたお店(ラーメン・オムラ
イス・ハンバーグ・海鮮丼)に

入り、おなかを満たしました。

午後からは「二十一世紀美術館」
にいき、「西京人」と美術展覧
の感性に浸っていました。金沢

駅でおやつとお土産を買い、新
幹線に乗り帰ってきました。

暑さと初めて尽くしの活動とい
うこともあり、少し疲れが見ら
れたように思えます。皆さんの

表情を見る

と、これからも心に残
る行事を企
画したいと
思いました。

た。

さつき苑だより

生活介護

工芸班は七月十九日(火)にびっくりドンキーと源ますのすしミュージアムに行つてきました。びっくりドンキーではナイフとフォークを上手に使って、ハンバーグをおいしそうに食べておられました。

源ますのすしミュージアムはナナイフとフォークを上手に使って、ハンバーグをおいしそうに食べておられました。



療育班は八月一日(月)に、サイゼリヤと梅かまミュージアムU'me'i館に行つてきました。サイゼリヤでは、ランチメニューの中から、好きなものを選び、ハンバーグやドリアを美見れておられました。



就労

就労班は、七月二十八日(木)に池田模範堂の見学と、自由館内のレストランシャトーで昼食をし、富岩水上ラインに乗船してきました。

池田模範堂では開業からの歴史、塗り薬「ムヒ」の製造工程を見学しました。

梅かまミュージアムU'me'i館では、かまぼこの歴史や語源、製造工程の説明を受け、職人さんが細工かまほこを作る様子を見学してきました。色の調合や、細かな模様入れなどを手早く行つていい姿を見ることができました。



つつじ苑だより

遠足

五月二十四日(火)、遠足に出かけました。今年も利用者のみなさん 의견を取り入れ、「まんだら遊苑」と「ささら屋」に決定しました。

「まんだら遊苑」では、せんべいの製

は、ガイドさんの説明を聴きながら後について、地獄をイメージした精霊橋を恐る恐る渡つたりと、立山曼荼羅の世界を体験してきました。

「ささら屋」では、せんべいの製造工程を見学してきました。また、せんべいの手焼きも体験してきました。せんべいを焦がさないように苦労しながら焼いた後、香ばしい焼きたてのせんべいをおいしくいただきました。



夕涼み会

八月五日(金)、第四回夕涼み会が行われました。恒例の流しそうめんをはじめかき氷、ポップコーン等の模擬店に加え、今年は利用者のみなさんの希望を聞き、どうもろこしも用意しました。

各模擬店でお腹がいっぱいになつた後は、すいか割り、ゲーム大会を行いました。すいか割り

では、マラカスを手に応援にも力が入り、見事スイカにあたると大きな歓声が上がつてきました。ゲーム大会では、なんと第二問目で勝敗が出てしまいましたが、みなさん正解された方に笑顔で拍手を送っていました。



すいか割り大会

地域相談室だより

親子のびのびキャンプ

障害児を養育している母親は普段から生活の多くの時間を子どものために費やしていくじっくり子どもの将来について考えたり学ぶ機会が少ないと感じています。そこで「星の子サークル」と「のぞみの会」の協力を得て「国立立山青少年自然の家」で一泊二日の「親子のびのびキャンプ」を開催し八家庭が参加しました。

まずは親子で昼食のピザ作りをしていました。いつもは親に任せきりしました。いつもは親に任せきりの調理ですが、今日は子ども達も悪戦苦闘しながら自分だけのピザを作りました。

火に近づけるおそれ



き薪をくべるなど普段はできないことも体験することができました。昼食後は子ども達は谷の沢歩きに向かいました。沢歩きや就寝入っていた子ども達も進むにつれ足取りがしつかりし、ゴールするときには自信に満ち溢れた表情になっていました。

その間母親達は倉田統括管理者、牧野室長と研修会を行い「自立に向けて」や「福祉の仕組み」などについてそれぞれが持つている日々の悩みをざっくばらんに話し合うことができました。

夕食後は、親子一緒にキャンプファイヤーをしました。炎を囲んで歌ったり踊ったりして楽しいひと時を過ごしました。最後は消えゆく火を見つめて厳かな気持ちになりました。

就寝は親子が別々の部屋で寝ることになつていて、親と離れたことや慣れない場所に泊まることがなかなか寝付けない子どももいました。また、母親の方も子どものことが心配でぐつくりと眠ることができなかつたのではないでしょうか。翌朝子どもと顔を合わせたときは、まるで何日も離れて過ごしていたかのような再会ぶりでした。

今回のキャンプには「富山短期

大学」から二名、「富山国際大学」から一名の学生ボランティアが参加してくれました。沢歩きや就寝時など親子が離れて過ごす時間には、不安になつている子どもを励ましながら上手に導いてくれました。学生にとつても良い経験になつたことだと思います。ありがとうございます。

この企

画は来年以降も継続して行つてい



き、少しでも地域で頑張っている方達の力にnaればと考えてい

ました。

二日目は、「知的障害者施設のリスクマネジメントについて」記念講演があり、施設職員としてもリスクと向き合う姿勢や考え方、また、家族に対する真摯な姿勢の重要さを学ぶ良い機会となりました。

今回の研修に参加させていただけ、多くの事例報告を聞き、自身の狭い視野での支援になつていることを改めて自覚し、今後広い視野とより専門性を持つた支援を行つていかなければならぬと感じることの出来た良い機会とな

北陸地区知的障害者関係施設職員研修大会に参加して

支援課第二係長 嶋作 直美

今年は富山県総合福祉会館「サンシップとやま」で北陸地区知的障害者関係施設職員研修会が開催

されました。

大会」から二名、「富山国際大学」の共生社会の実現に向けて「利用者一人ひとりを活かす支援力：私たち専門職員として果たす役割を考えるとあり、六つの分科会に別れ実践報告や活発な質疑応答が飛び交いました。私が参加させていただいた分科会のテーマは「日中活動における支援の『役割と使命』とは」とあり、各施設で行われている利用者主体の中活動の報告がありました。利用者一人ひとりのストレンゲスをいかに生かし、事業所全体としてどう支援していくのか。また、地域における役割とはどのようなことか。いずれの場合も一方的な思いではなく、互いに必要とされる存在になるための方法を実践していくことの大切さを改めて感じました。

二日目は、「知的障害者施設のリスクマネジメントについて」記念講演があり、施設職員としてもリスクと向き合う姿勢や考え方、また、家族に対する真摯な姿勢の重要さを学ぶ良い機会となりました。

今回の研修に参加させていただけ、多くの事例報告を聞き、自身の狭い視野での支援になつていることを改めて自覚し、今後広い視野とより専門性を持つた支援を行つていかなければならないと感じることの出来た良い機会とな